



解 説

【概要】

令和元年の勤労者一世帯当たりの貯蓄現在高は、全国では11,082千円で、本県では7,315千円と全国平均を下回っている。

一方、負債現在高では、全国で7,895千円、本県では7,075千円となっている。

また、令和6年3月末の一人当たり個人預金残高は3,101千円で、全国平均に対し67.9%と低い水準にある。

○貯蓄現在高

ゆうちょ銀行、郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構、銀行、その他の金融機関への預貯金、生命保険・積立型損害保険の掛け金、株式・債権・投資信託・金銭信託等の有価証券と社内預金等のその他の貯蓄の合計をいう。

○平均貯蓄率

貯蓄純増÷可処分所得×100

○貯蓄純増

「預貯金」と「保険料」の合計から「預貯金引出」と「保険金」の合計を差し引いたもの

○負債現在高

ゆうちょ銀行、郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構、銀行、生命保険会社、住宅金融支援機構などの金融機関からの借入金のほか、勤め先の会社・共済組合、親戚・知人からの借入金及び月賦・年賦の残高など金融機関外からの借入金の合計をいう。

○個人預金残高

国内銀行における各年3月末現在の個人名義の預金残高をいう。

資料出所	調査期日	調査周期
*1、*3 「全国家計構造調査」 総務省統計局	令和元年10月、11月	5年
*2 「家計調査」 総務省統計局	令和6年	毎年
*4 「都道府県別預金・現金・貸出金」 日本銀行	令和6年3月末	毎月